

様式第 1 (第 15 条関係)

会 議 録

会議の名称	令和元年度第 1 回和泉市子どもの読書活動推進協議会
開催日時	令和元年 6 月 18 日 (火) 16 時から 17 時 30 分まで
開催場所	T R C 和泉図書館 集会室 1
出席者	<p>委 員：(学識経験者) 小前会長、(関係団体の代表) 弓削委員、浅井委員、(子どもの読書活動に係る図書館ボランティア団体の代表) 前山委員、(保育園長会代表) 奥野委員、(幼稚園長会代表) 福本委員、(小学校教育研究会図書館部会顧問) 門林委員、(中学校教育研究会図書館教育部会顧問) 長村副会長、(市内の高等学校図書館関係教職員) 伊藤委員、(市内の支援学校図書館関係教職員) 白間委員</p> <p>事務局：(生きがい健康部健康づくり推進室健康増進担当) 藤原課長、(学校教育部指導室指導担当) 大野課長、(こども部こども未来室こども支援担当) 辻総括主幹、(生涯学習部) 乾次長、(生涯学習課) 尾郷課長、(読書振興課) 中野課長、関戸課長補佐、西村主事、(和泉図書館) 岩本館長、(シティプラザ図書館) 森川館長、(にじのとしょかん) 佐藤、(北部リージョンセンター図書室) 小林、(南部リージョンセンター図書室) 木村</p> <p>【欠席】(学識経験者) 大平委員</p>
会議の議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委嘱状・辞令の交付 2. 副会長の交代について 3. 平成 30 年度数値目標の実績について 4. 平成 30 年度の事業報告について (関係部署の取組報告) 5. 令和元年度の取組について 6. その他
会議の要旨	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 3 次計画の数値目標で、平成 30 年度実績が既に 5 年後の目標を達成している項目もあるが、目標をさらに上回るよう取り組んでいく。 ・ 来年度から新学習指導要領が実施され、外国語の授業が増えるが、図書館を使って外国語を楽しむことができる取組などができればよい。 ・ ボランティアの方が保育園、幼稚園、小学校、子育てサークルなどに絵本の読み聞かせをしてくれており、皆に喜ばれている。
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 要点記録
記録内容の確認方法	<input checked="" type="checkbox"/> 会議の議長の確認を得ている <input type="checkbox"/> 出席した構成員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他 ()
その他の必要事項 (会議の公開・非公開、傍聴人数等)	会議：公開 傍聴人：0 人

審 議 内 容 （発言者、発言内容、審議経過、結論等）

【司会】

開会

委嘱状及び辞令の交付

副会長の交代（松井委員から長村委員へ交代）

以後、会長が進行

【会長】

私は、昨年度より、本協議会の会長をさせていただいております。簡単に自己紹介をいたします。

私は、大阪市立図書館を定年退職しまして、現在は関西大学で図書館サービス論、児童サービス論、学校図書館サービス論などを担当しています。また和泉市にあります桃山学院大学の司書講習なども担当しています。また、大阪市の方で学校図書館活用推進事業というのがあり、その中で学校図書館補助員ということで、小学校と中学校へ、1日ずつ現場にも行っています。そういった経験を踏まえて、皆様と色々なご意見を交わさせていただけたら嬉しく思います。

本日は、昨年度の協議会から約1年が経過し、今年の3月に第3次和泉市子どもの読書活動推進計画が策定された節目の時期でもありますので、皆様の忌憚りの無いご意見をいただいて、この計画が豊かに進行されていきますよう、皆様のご意見を賜りたいと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、議事に入ります。案件1「平成30年度数値目標の実績について」を、事務局より報告願います。

【事務局】

（案件1について報告）

【会長】

今年の3月に、資料番号1の「第3次和泉市子どもの読書活動推進計画」が策定されたという説明がありました。そして、今後5年間で、この協議会において、計画の進行管理をしていくということです。そこで、早速といいますか、資料番号2として、この計画の数値目標の平成30年度の実績が出てきています。これにつきまして、皆さま、何かご意見・ご質問等ございませんか。

【委員】

資料番号2の数値目標において、平成30年度で既に5年後の目標を達成している項目、番号で言うと15・16番ですが、これについては、どのように考えていますか。それと、1番のブックスタートでいうと目標が100%をめざすということでわかるのですが、数値目標として、上をめざしていったらきりがないので、実際にはどの程度をめざしているのかをお聞きしたいです。

【会長】

2点質問がありました。1点目は、15・16番の、既に目標を達成している場合についての考え方、2点目は、目標として上をめざし続けるのか、その辺りの目標値に対する認識について、事務局お願いします。

【事務局】

15・16番の、「子どもの市立図書館利用者率」「小学生の市立図書館利用者率」について、平成30年度実績がすでに目標を達成していることについてですが、図書館の利用が最近では右肩下がりがだったところもあり、目標についてはそれを食いとめる目標値にしていたのですが、昨年度から「ぶっくんつうちょう」の発行を始めたことによって、特に0～6歳児までと、小学校の低学年では、利用の実績が伸びています。その辺りをこちらで掴めておらず、既に目標を達成してしまったところ。もちろん、目標を達成したからこれでいいということではありませんので、他の事業についても、これからもさらに目標を上回るように、していきたいと思います。2点目の目標値についてですが、確かにずっと上をめざし続けるのは難しいと思います。ただ、それを見過ごすわけにもいかないので、これからも努力をしていきたいと思います。

【会長】

1点目については、ぶっくんつうちょうの効果もあって、こういった状況になっているということですね。これについては、今後5年間の中で、推移を見ていきたいと思います。2点目の目標値については、その数字がすでにいっぱいいっぱいまで来ているのか、まだまだ高い目標をもっていけるものなのか、その中身も考えながら計画を進行していただきたいと思います。他にございませつか。それでは、次に案件2「平成30年度の事業報告について（関係部署の取組報告）」を、事務局より報告願います。

【事務局】

（案件2について報告）

【会長】

只今の報告について、何かご意見・ご質問等ございませつか。それでは、私の方からお聞きします。資料番号3の11ページにございませつか、「ぬいぐるみおとまり会」について、ご紹介いただきたいと思います。これは図書館などで、数年前から注目されている取組だと思ひますが、まだ広くはされていないと思ひますので、その様子をお伝えいただきたいと思ひます。シティプラザ図書館の方、お願いします。

【事務局】

シティプラザ図書館長です。ぬいぐるみおとまり会は、お子さんが可愛がられているぬいぐるみを、一晚図書館で預かり、いろいろな体験をぬいぐるみにしてもらふ取組です。預かった日の夜に、ぬいぐるみが絵本を読んだり、おはなし会をしている様子を写真で撮影し、翌日にぬいぐるみを預けた方がお迎えに来られた時に、その写真とおすす

めの本などをお渡しして、本を借りてもらったりしています。ただ、昨年度は台風がございまして、お迎えに来ていただくのは危険ということで、ぬいぐるみが延泊となってしまいました。今年度は、先月に無事終了いたしまして、今年は1泊でお帰りいただきました。お子さんはとても喜んでいました。

【会長】

子どもにとっては、図書館を利用するきっかけになるいい取組だと思います。他に何かございますか。よろしいでしょうか。それでは、事務局からの平成30年度取組については以上とさせていただきますが、本日ご参加の委員の皆様につきましては、前回の協議会から約1年経過していますので、それぞれの現場での取組もいろいろあったかと思っておりますので、それらの報告をいただきながら、この議論を深めていければ、と思います。それでは、支援学校の方では、いかがでしょうか。

【委員】

支援学校の図書館は、毎日空いているわけではありませんが、お昼休み等に開放し、本の貸出をしています。休み時間に本を借りに来ることのできない子どもに対しては、高等部の子どもが、小学部や中学部の子どもに本の読み聞かせをするという企画をして、本を読むことを深めてもらっています。

【会長】

それでは、高等学校では、どうですか。

【委員】

うちの高等学校は、朝の授業が始まる前や昼休み、またテスト期間中に、図書館を開けています。しかし、開けていてもなかなか生徒が来ない状況です。最近新しくできた学校の場合は、1階に図書館を作って、帰りにその前を通過して帰ることができたりしますが、昔の学校の図書館は、だいたい最上階にあたりします。ですので、せっかく最上階まで上がって図書館に行ったのに開いていないとなれば、次に行く気もなくなると思いますので、できるだけ図書館を開けるようにしています。そして、子どもが少しでも勉強をしたくなったらいいな、と思います。あとは、クラスに馴染めない子どもの居場所となれるような配置、例えば周りから干渉されないようなレイアウトに変えたりしています。あとは、高等学校では、以前は司書を各校に1名配置されていましたが、最近では司書の配置がなくなったり、他の学校と兼務だったりします。

【会長】

それでは、中学校では、どうですか。

【委員】

中学校の図書館教育部会では、各学校から代表の先生が来られて、大阪府学校図書館協議会の授業で研修会に参加したり、教員の方の研修を進めています。生徒は、うちの中学校では、朝に10～15分の読書時間を設けて、毎日、本に触れる活動をしていま

す。先ほどの資料番号1の第3次計画の中で、中学生が家で本を読まない、読書が好きと答えない、小学生から中学生にかけて本を読まなくなっていることにショックを受けています。今の子どもは、寝る前にスマホを触っているのかな、と思いますが、例えばその辺りを、本を読むことに切りかえていけるような呼びかけができればいいと思います。子どもが本を読む時間について、例えば小学校では本が教室に置いてあり、本を読んでいいとなると、子どもは喜んで本を読みます。中学生にはそのような時間があまりありません。その辺りを、学校として何か取り組めるものがあるのではないかと、思います。

【会長】

先ほどの事務局の報告から、中学生が本を読む時間が減っているということについてのご意見がありました。それでは、小学校では、どうですか。

【委員】

小学校では、読書をする環境づくりとしては、本を読む時間は比較的取れているかと思っています。低学年では、週に1時間は図書館に入る時間を確保しています。高学年については、時間は確保しているのですが、やはり教科の学びの方が多くなってきますので、それでも隔週に1時間は、図書館を利用する時間を確保しています。和泉市の場合は、有償ボランティアで学校図書館支援司書を配置していただいているので、支援司書と教員が連携して読み聞かせをしていただいたり、調べ学習に必要な書籍類を収集していただいたりもしています。図書館や本に触れる機会はできているのかな、と思います。ただ、来年度から新学習指導要領が実施されると、外国語の授業などが増えてきたりしますので、時間割が窮屈になるのかな、と懸念しているところです。そういうところも含め、今後読書の時間をどのように確保していくのか、また本に触れる楽しさを子どもに経験させてあげることが、将来にわたって、途中に本離れがあってもやがて戻ってくるような、そういったものにしていけたら、と思います。うちの学校では、本の帯コンクールに取り組んだり、ボランティアさんに本の読み聞かせに来ていただいたりしています。

【会長】

小学校の方では、支援司書の方々と読み聞かせや調べ学習にも取り組まれているということで、その点は非常に嬉しく思いますし、ボランティアさんによる読み聞かせも行っているということで、活発に活動されている様子がわかりました。新学習指導要領の中で、外国語等について、学校図書館も含めて何か取組ができればいいな、と思います。それでは、幼稚園では、どうですか。

【委員】

幼稚園では、毎日、教師が子どもに絵本の読み聞かせをしたり、紙芝居などの時間を大事にしています。週に1回は、絵本を家に持って帰れる日があり、週末は家で保護者の方に絵本を読んでもらっています。あとは、絵本の読み聞かせとして、ボランティアの青い鳥さんに月に1回来ていただいたり、にじのとしょかんに絵本や紙芝居を何十冊

もお借りして子どもに読み聞かせをしています。保護者の中には、「子どもが同じ絵本を何回も借りてくるんです。」と言って来られる方もいますが、そのような時には、「お子さんはお気に入りの絵本を見つけたので、今はその絵本に夢中になっているんですよ。」というように伝え、家で楽しい時間を過ごすようにしてもらっています。年長さんになると、小学校に行って勉強につながっていく部分もあるんですが、「1+1=2」と教えるのではなく、「りんごが1つありました。もう1つりんごをもらいました。あわせていくつ？」という感じで、やはり絵本やお話を聞いてイメージできるというか、言葉で伝えていくことが大事だということを保護者の方に話しています。

【会長】

お子さんに絵本を持って帰ってもらうことで、保護者の方にも関心を持ってもらうことにも繋がると思います。ボランティアの方にも読み聞かせをしてもらったり、様々な活動をされているということですね。それでは、保育園では、どうですか。

【委員】

保育園では、5月頃から週に1回、絵本の貸出をしています。第3週には、親子貸出ということで、2冊借りることができます。親子で一緒に選ぶので、親子の関係も深まると思いますし、家に帰って読み聞かせをしていただくことによって、親子の繋がりやふれあいなどができると思います。あとは、にじのとしょかんから絵本を借りて、担任が読み聞かせをしたり、ボランティアのわらべの会の方に来ていただいて、読み聞かせやパネルシアター、指人形、手遊びなどをしてもらっています。

【会長】

保育園でも絵本を借りて帰ってもらい、絵本を介して、親子の交流にもなっているということです。それから、にじのとしょかんからの絵本の団体貸出も受けたり、ボランティアさんの活動もされているようです。それでは、先ほどから何度もボランティアさんについては出てきていますが、ボランティアさんの活動は、どうですか。

【委員】

平成30年度は、今まで通りの読み聞かせを幼稚園、小学校、子育てサークルにしましたが、メンバーの高齢化により、絵本の読み聞かせをする際に、絵本の字が読みにくくなっている問題があります。その中でも、普段保護者や学校の先生が手に取らない、選ばれない絵本に興味を持ってもらいたかったので、そのような絵本を選んで読んでいました。昨年度、小学校に読み聞かせに行った際に、子どもから「楽しい絵本を読んでほしい。」と言われました。今までは、1年から6年まで、学年が上がるごとに、簡単な絵本からだんだん難しくなっていくように、絵本を選んで読み聞かせをしていましたが、その子の言葉で、そういったことは先生にしてもらったらいいんだ、と思いました。私たちは、絵本に興味を持ってもらうために、今年からは、子どもに楽しいと思ってもらう絵本の読み聞かせをすることにしました。すると、そちらの方が、子どもに評判が良かったようです。やはり朝読では、楽しい気分で1日を過ごさせてあげないといけないな、ということに気づきました。それと今年になって残念だったのが、小学校

には支援司書の方は全校に配置されていると聞いていたのですが、青葉はつが野小学校から、支援司書がないので、今年度は読み聞かせを断りたいと言われました。支援司書は各校に配置されているはずなのに、青葉はつが野小学校にはいないと言われましたが、この辺りはどうなっているのですか。

【会長】

今の話について、指導室の方、どうですか。

【事務局】

支援司書は各校に配置しているのですが、青葉はつが野小学校では、今年度の初めに人員の欠員があり再募集をしまして、昨年度は1名だったのですが、今年度は5月末より2名の配置をさせてもらっています。

【会長】

では、今の話は、その欠員の時期ということですね。ボランティア代表の委員、それでよろしいでしょうか。

【委員】

わかりました。それでは、来年度は青葉はつが野小学校から呼んでいただけることを楽しみに待っておきます。それと、先ほど学校の先生からもありましたが、これから英語が入ってくることによって、学校側として読み聞かせの時間が取れなくなっていくます。だんだん詰め込み式になってきて、その上に本を読まないといけないとなれば、子どもは大変だと思います。学校から、今後は「アクティブ・ラーニング」のようなことも取り入れていただいたら嬉しいと言われましたが、どうしたらいいのか検討中です。

【会長】

子どもも参加して一緒にやるようなものということですね。そして、ボランティアさんがいろいろな取組をさせていただいていることがわかりました。これまでの積み重ねがあった上で、今年は方針を変更し読み聞かせの際に選ぶ絵本を変えるなど、いろいろと参考になるお話でした。これからは図書館を使って外国語を楽しめる絵本などの検討も必要かと思いますが、小学校代表の委員、いかがでしょうか。

【委員】

もちろん外国語を指導するのも必要ですので、これからそういった授業についても研究していくところです。

【会長】

ぜひ図書館も利用していただけたらいいな、と思います。それでは、PTA代表の委員、いかがでしょうか。

【委員】

うちの子どもをみていますと、小学校や中学校の時は、夏休みの読書感想文の宿題などのために学校図書館を利用していましたが、高校や大学になると学校図書館は、ほとんど行かないと言っていました。聞くと、読みたい本がないらしいです。先日、子どもの大学に行った際に、漫画を読んでいる子どもがたくさんいたので、その子達に聞いてみると、タブレットでは読んだ気にならないそうです。漫画を古本屋でたくさん購入し、友達の間で回し読みをし、また古本屋に売ってリサイクルするという事です。その子達に、本は読んでいるのかを聞くと、好きな作家がおらず、本を読むとしたらベストセラーになっている本をタブレットで読むと言っていました。物によって、読み方の媒体も変わってきていますし、図書館についても、興味のあるものがそこにあるとわかっている子どもは、行くと思います。図書館に興味がある子どもは、図書館に何があるかをリサーチして行っていると思います。興味のあるものがあれば図書館へ行き、なければ本を購入したりタブレットで見たりしているように思います。子どもは、幅広く興味があることが多いので、ハウツー物やビジネス本などにも興味を持つかもしれません。

【会長】

いまの若い人達がどのような読書をしているのか、ということの紹介をしていただきました。委員がおっしゃるように、本という媒体に限らず、他にもアプローチする媒体はあると思います。それでは、子育てサークルの委員、いかがでしょうか。

【委員】

子育てサークルで実際に活動しているサークルは少ないように思うのですが、子育てサークルに来られる保護者の方は、子育てに熱心な方が多いです。マスコミなどの情報から、子どもに本を読ませましようと言われていたり、また青少年の事件が起こった時に、その子の小さい頃の生い立ちが引き合いに出されているのを見て、子どもとのふれあいやコミュニケーションの大切さを感じられている保護者の方が多いように思います。そのコミュニケーションの手段として、絵本を使っている保護者の方も多いです。その証拠に、子育てサークルをやっているところは、絵本の読み聞かせを出前講座で来てもらったり、ボランティアを探して来てもらっているサークルが何グループかあります。また、そういう時間の持てない親子もおおり、子どもは本を読んでもらいたくても、親が忙しいということがあります。そういうときには、仲よしクラブや保育園、幼稚園でそこを満たしてもらったり、地域の人でその辺りをうまくフォローできるようなコミュニケーションの場もあるようですので、子どもの興味のあるものが与えられる、そういう地域であつたらいいな、と思います。

【会長】

コミュニケーションの場に絵本が活用されたというお話しですね。それでは、先ほどから保育園や幼稚園で、にじのとしょかんの団体貸出の話が出てきたかと思いますが、にじのとしょかんの方でどのような取組がされているのか、教えていただけますか。

【事務局】

にじのとしょかんから絵本の読み聞かせの出前講座に行ったときに、それをきっかけとして本を何冊か貸し出した、という経緯から、団体貸出をして借りていただいています。

【会長】

出前講座から団体貸出に発展しているということですね。あとは、中学・高校の読書離れが起こる時期に何かできる取組がないか、考えていかなければいけませんし、小学校は外国語も入りカリキュラムが混んできて、どれだけ読書の時間が確保できるか、ということが課題になってきますね。

【委員】

ボランティアの代表です。小学校の図書室によく行きますが、昨年度行った時に、「校長先生が読んで楽しかった本」や「教頭先生おすすめの絵本」や「6年1組担任がすすめる本」というように書いていて、その本は全てなくなっていました。ということは、それらの本を子どもが借りているということです。そこで、支援司書さんに「全学年でしているのですか？」と尋ねると、「いいえ、今の時期は6年生です。」というように、支援司書さんはいろいろな工夫をして、子どもが図書室に来るように働きかけていることを、毎回感心します。支援司書の方が変わるごとにやり方も変わっていくので、子どもに取れば、長い間同じ人でいくよりも、2年くらいで変わっていった方が目新しいものと出会う機会が増えるのかな、と思います。

【事務局】

指導室です。先ほど紹介いただいた図書室での取組についてですが、身近な先生からのおすすめの言葉は子どもたちに響くということから取り組まれており、貸出中というのを取って貼ることで、人気がある本ということをアピールしている、というようなことをしている支援司書の方もおられます。

【会長】

そうですね、先生がおすすめする本なら、生徒は関心を持って借りると思います。このような取組は、いろいろな学校で支援司書さんがいろいろな形でされていると思いますので、できるだけその情報を共有し、その関係の方々にも知ってもらおうということが、支援司書さんが働くモチベーションにもなると思いますので、そういったことを指導室の方で取り組んでいただけたら、と思います。他に何かございますか。

【委員】

高等学校代表です。これはどこの図書館でもそうだと思いますが、本屋大賞などで人気のある本を借りようかと思って市立図書館へ行くと、貸出中で2か月待ちであったりします。何回も図書館に行っていてそういうことがわかっている人は、予約をしたりすると思いますが、初めて図書館に行った人はそういうことがわからないと思います。高等学校では、生徒が借りに来た本がなかった場合は、どんな本が好きなのかを聞いてみ

たりします。慣れている子はいいのですが、慣れていない子は、行って借りたい本がなければすぐに帰ったりするのですが、その辺りはどうしようもないんですかね。

【会長】

市立図書館では、人気があり予約が多数入っている本について、どのように対応していますか。

【事務局】

市立図書館では、予約が多数入っていても、例えば各館10冊ずつ購入するということではできませんので、現在最高で300人待ちとかの状態ではあります。そういう中で、各館数冊ずつ購入し、また「この本は、人気のある本ですのでご寄贈ください」といった張り紙もしながら対応しており、できるだけ早くお読みいただけるように努力をしています。

【委員】

市民さんが図書館に行って、借りたい本が貸出中だった時に、図書館職員との会話とかはありますか。

【事務局】

カウンターに、「この本ないですか？」と聞きに来ていただければ、「この本は、現在は貸出中ですが、この作家さんの前に書いた本ならありますよ。」ということはお伝えできますが、なかなかカウンターを素通りして帰ってしまう人が多いと思います。初めての人に声をかけにくいのもありますし、それこそコミュニケーションで、そういった窓口に来るのが慣れている人であればできるかもしれませんが、そういうのができない人であれば、やはり帰ってしまうと思います。ただ、来られた市民さんに対して、困ってそうであれば、職員は声かけをしていると思います。

【委員】

P T A代表です。うちの子どもが市立図書館に行ったときに、借りに行った本が貸出中だったので、他の本を教えてもらって借りてきたことがありました。「現在この本は貸出中ですので、ありません。」などの紙が貼られていたらわかりやすいかもしれません。

【委員】

子育てサークル代表です。半年か1年待って、予約が回ってきた連絡が来たときの感激もひとしおです。

【会長】

人気の本に予約が集中することは、かねてから図書館では大きな問題ですが、出版社や図書館のあり方や予算との関係もあって、これが一番適切な冊数であろうというところでやっているのが、図書館の現状だと思います。

【委員】

高等学校代表です。ベストセラーの本を、図書館で何冊も購入していて、何年か経てば全部を並べることはないと思いますので、できればそのような本を、中学校や高等学校に回してもらえればありがたいと思います。それとこれも難しいこととは思いますが、私が知るところで、北海道の本屋さんが実施していることがあります。その本屋さんに1万円を送るとメールがきて、そこにカルテとして自分が好きな本や今まで読んだ本などを書いて送り返すと、その本屋さんがその人にあった本を選んで1万円分の本を送ってきてくれるというのがあるそうです。その本屋さんはすごい量の本を読んでいて、どんな本がその人にあうのかを考えて送っているということで、すごく大変なことだと思います。申し込みをするのも1か月待ちだったりするそうです。高等学校の図書館でも、来た生徒に好きな本などを聞いてみて、できるだけ生徒の気に入るような本を選んだりもしているのですが、市立図書館では難しいとは思いますが、そういうのができればいいと思います。

【会長】

利用者のニーズを聞いて、コミュニケーションを取りながら提供していけたら、ということですね。事務局、いかがでしょうか。

【事務局】

それにかかる時間もかなり必要だと思いますので、全市民対象となるとなかなか難しいと思います。今後、AI技術がでてくれば、可能になるかもしれませんが、今のところ、そのような対応は難しいと思います。

【会長】

高等学校など、若い人たちには、そういうのが合うのかもしれませんがね。他に何かございますか。

【委員】

ボランティアの代表です。「ぶっくんつうちょう」について、すごくいい取組だとは思いますが、記帳をしたいために、本を借りて、読まずに返す子どもがいてないのかな、と思います。借りた本を読んでいるかはわからないですよね。それで、「ぶっくんつうちょう」ができたから貸出冊数が増えているのであれば、このデータは違うということになりますよね。私たち大人が貯めているポイントは、何かを買わないと貯まりませんが、「ぶっくんつうちょう」は金銭が動きませんので。

【事務局】

今のところそのようなことはございません。週に1回くらい親子で来て、熱心なご家族が多いです。現在3人、通帳がいっぱいになった子どもがいますが、その3人とも、ご家族と一緒に来て、本を熱心に読んでおられます。

【委員】

それならいいのですが。これを知ったら、そのような子どもが現れると思ってしまいました。

【会長】

ご家族で読書に親しまれているということですね。委員がおっしゃる、そういう子どもが仮におられたとしても、そこから本を読むきっかけとなり、読書に励むこともあるかもしれません。

【委員】

そうですね。これが学校図書館とオンラインでつながれば、もっと利用が増えてくると思いますね。

【会長】

いろいろなご意見をありがとうございました。他に何かございますか。なければ、次に案件3「令和元年度の取組について」を、事務局より報告願います。

【事務局】

(案件3について報告)

【会長】

只今の報告について、何かご意見・ご質問等ございませんか。先ほど市立図書館と学校図書館との連絡会議を行っていきたい、と言われていましたが、これは今年度から予定ということですか。

【事務局】

はい、指導室、学校の司書教諭、支援司書、市立図書館、読書振興課が集まって、年に2回程度会議をしたいと思っておりますが、まだスケジュールは決まっていません。

【会長】

学校や図書館の方々が集まって会議をし、コミュニケーションが取れたらいいな、と思っておりますので、よろしく願いいたします。それでは、次に案件4「その他」として、何かございませんか。何も無いようですので、本日の議事を終了させていただきます。次回の開催は、10月頃となっておりますので、よろしく願いいたします。

《閉会》